

被災地の勇気や絆伝えて

三陸町 インバウンドで講演会

めの取り組みなどについて理解を深めた。国内の公共、民間のインバウンド振興に携わっている同連合会の中村好明理事長が、「インバウンドが切り開く南三陸と東北の未来」をテーマに講演した。

日本インバウンド連合会主催のインバウンド（訪日外国人旅行）に関する講演会が31日、南三陸ホテル観洋で開かれ、気仙沼・本吉地区で成功させるたく、さまざまな用途で

訪れており、それに対応する「おもてなし」が大切」と強調した。インバウンドを増やすためには、旅行者をリピーター化させることの重要性を訴えながら、「一度満足したものを、同じ品質でもう一度提供しても満足感は薄くなる。前回以上の接客サービスが求められる」とし、「また来たい」と思わせるよ

うなしっかりとした戦略を立てることが必要」と訴えた。意見交換では、参加者から「震災遺構の観光資源の可能性」について質問があった。中村さんは「被災地でのインバウンドが増えていくのは、復興に向けて頑張っている姿を見に来る人が多いので、悲惨な話だけではなく、勇気や絆などを伝

えることが重要」と答えた。



インバウンドの成功のヒントを語る中村さん

2018年2月3日(土)
【三陸新報】